

令和元年度 第2回北葛北部在宅医療・介護連携推進会議 議事録

開催日時: 令和元年12月26日(木)午後6時30分～

会場: ウェルス幸手 2階研修室

出席者: 35人 事務局: 5人

司会: 幸手市介護福祉課 関森主査

1. 開会	
2. あいさつ	杉戸町高齢介護課 山下課長
資料の確認	
新規に委員になられた方の紹介	
3. 令和元年度事業実施状況 資料「令和元年度 在宅医療・介護連携推進事業の実施について(令和元年11月30日現在)」	
杉戸町高齢介護課 新堀主査	<p>幸手市と杉戸町が北葛北部医師会に委託している本事業の上半期の取り組み状況について、(ア)～(ク)の8項目の内容ごとに報告を行う。</p> <p>ア) 地域の医療・介護の資源把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幸手・杉戸の医療・介護の資源マップ等は、年一回の更新。行政のホームページからも、検索可能。 ・幸手、杉戸の各医療機関における在宅医療の実施状況(意向)について、聴取を行っている。 <p>イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアカフェでは事例を通して、医療・介護の連携課題や改善策の検討を行っている。 ・地域包括ケア会議を毎月第4木曜日実施。暮らしの保健室「菜のはな」や幸手・杉戸の地域包括支援センター及び社会福祉協議会、ケアマネ連絡会等の参加による事例検討や情報共有を行っている。 ・前回の会議で、幸手保健所石井部長より「人口動態統計」「在宅で死亡する割合」などのデータを元に、幸手・杉戸の現状をお話いただいた。 <p>ウ) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月のケアカフェで「在宅医療の考え方」についてホームクリニック横浜港南 院長の足立大樹先生に講演していただいた。 ・9月と11月の入退院支援意見交換会にて、多職種の専門職による情報交換を行った。 <p>エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関にもMCSに参加してもらえるよう、拠点の相談支援の周知も兼ねてキャラバン活動を行っている。 <p>オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療連携拠点の設置は、平成30年度より県事業から市町事業(地域支援事業)に移行され、在宅医療連携拠点活動を継続実施している。 <p>カ) 医療・介護関係者の研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度のケアカフェは、11月末で6回実施。 ・在宅看取りに関わる方(訪問看護ステーションの方、介護支援専門員、施設の方など)を対象としたELNEG-J研修会を10月に2日間で実施した。 ・ケアマネ研修会として、11月のケアカフェで「地域共生社会について」埼玉県ケアマネージャー協会 会長の杉田まどか先生に講演していただいた。 ・医療機関退院支援担当職員連絡会として、多職種の方に参加していただき、入退院支援研修会を実施し、事例検討を行った。 <p>キ) 地域住民への普及活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来月1月26日(日)カルスタ杉戸多目的ホールにて、コミュニティデザイナーの山崎亮先生を講師に迎え、人とひととがつながるしくみづくりについて、市民向けに講演会を開催する予定。 ・幸手・杉戸のサロン等通いの場在宅医療連携拠点の職員が出向き「暮らしの保健室」を実施。 ・住民向けパンフレット「地域まるごと相談」や「菜のはな便り」の配布、「菜のはなラジオ」を開設。 <p>ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北葛北部在宅医療・介護連携推進会議を6月27日と12月26日の2回実施。

令和元年度 第2回北葛北部在宅医療・介護連携推進会議 議事録

4. 菜のはなの取組み報告について	
中野議長	<p>菜のはなの取組みの進捗状況を説明。 認知症の取組みは昨年度から引き続き行っている。その他①終末期対応について②入退院支援について③共生社会について、大きく3つの事業に取り組んでいる。 この事業の前段の説明として、介護保険の改正により、平成28年から地域包括ケアに関連した事業が拡充した。幸手市と杉戸町と北葛北部医師会の事業として予算化し、東埼玉総合病院内に北葛北部医師会の事務局が設置され、国から示された(ア)～(ク)の事業に取り組んでいる。 ①終末期対応について、幸手市薬剤師会会長の関谷先生とふたば在宅クリニック院長の石井先生から講演していただいた。参加者68名。関谷先生のご講演から在宅の現場で薬剤師さんの役割の大きさが伝わった。石井先生のご講演は、現場の方がモチベートできる熱い講演だった。 ELNEC-J研修について、菜のはなから秋元看護師が出席した。</p>
菜のはな 秋元看護師	<p>在宅で薬を使用するにあたっての根拠を勉強した。患者と家族の設定でロールプレイングをした。 参加者からは、こんな風に勉強できてよかったとの感想が一番多かった。</p>
中野議長	<p>エルネックJ研修は、日本緩和医療学会が主催するプログラム。当日は20名の方が2日間10のプログラム研修に参加。 第4回ケアカフェでは、アドバンス・ケア・プランニングを含めた在宅医療について、ホームクリニック横浜港南 院長の足立大樹先生に講演していただいた。在宅医療は看取りの医療ではなく生活を支える医療であり、また、在宅医療の奥深さやマニュアル通りではなく悩み揺らぎ寄り添いながら看取っていく大切さを学んだ。当日は参加者44名。 杉戸町で作成したエンディングノートについて、サロン交流会で私が講師になり、事前にどのようにしたらよいかではなく、自分の大切だと思う人に自分を理解してもらい向き合うことの大切さを住民の皆様に伝えた。専門職だけで学ぶのではなく、大切な方との向き合い方について行政が住民に伝えた事業。 とねつとが救急搬送に結びついている。とても大事なものだが、分かりにくいものであるため、とねつとのチラシを作成した。 ②入退院支援について、この地域のルール作りを行っている。ルール作りで終わらずのではなく、多くの方々と話し合い意見を聞くため、ワークショップを行った。来年度になると思うが成果物としては、エチケット集を作成したい。菜のはなが、地域包括支援センターなどの意見も伺いながら、医師会として発行して皆様に周知していきたい。 ③地域共生社会について、第6回ケアカフェで埼玉県ケアマネージャー協会会長の杉田まどか先生に講演していただいた。当日、私が参加できない回で</p>
菜のはな 秋元看護師	<p>富山県のデイサービス「このゆびとまれ」のお話をしていただいた。誰でも必要なときに必要なだけ利用できる同様の施設が、今後増えるといいという意見があった。参加した杉戸町の事業所わたやさんは、自分の地域でもやってみたいと話していた。</p>
中野議長	<p>現在、介護保険の中にも、共生型サービスという障害の分野と共有していく動きがある。今後、ケアマネジャーの役割は大きくなっていく。 菜のはなでは、子育て総合窓口との連携も強化している。また、幸手市の子育て応援祭りや障害分野で支援活動をしている団体の活動にも参加した。 菜のはなのチラシを、住民の方に分かりやすく漫画を使って作成した。 本日欠席の飯島先生より台風19号の際に、在宅の方や利用者さんの避難状況や相談状況を確認してはどうかとご提案があったので、状況報告をお願いしたい。</p>
幸手西地域包括支援センター 金子氏	<p>24時間受付体制は取っていたが、相談はなかった。</p>
幸手市民生委員 市川氏	<p>特に相談はなかった。 防災無線が全く聞こえない。</p>
杉戸町民生委員 大橋氏	<p>避難所が開設されが、すぎとピアは早くから満員となっていた。 特に混乱なく、相談等もなかった。</p>

令和元年度 第2回北葛北部在宅医療・介護連携推進会議 議事録

中野議長	<p>災害については、先日のケアカフェでも石巻市の長先生に、講演していただいた。地域包括ケアは、災害対策においても非常に重要。菜のはなは、台風19号の際は、直通電話を2日間開設したが、連絡はなかった。連絡がなかったことがよかったという訳ではなく、菜のはなの周知が出来ていないことが課題と受け止めた。</p> <p>今年度は視察に多く来ていただいている。(韓国、茨城県の志村大宮病院、兵庫県の県議会・伊丹市・西宮市、関東信越厚生局や慶応義塾大学など)</p> <p>先日、日本地域包括ケア学会に出席した。厚生労働省と総合診療医と日本医師会がタックを組んだ学会。シンポジウムは3つあり、1つ目は地域福祉との連携、2つ目は多職種協働、3つ目は在宅医療連携拠点。全国先進事例として紹介。</p> <p>菜のはなは、SNSを利用した情報発信をしている。(菜のはなラジオの紹介)</p> <p>北葛北部医師会や幸手市・杉戸町のホームページでも医療・介護の地域資源マップを検索できるようになっている。</p> <p>MCS登録者も約130人いるので、MCS上で意見交換を行いたい。</p>
5. 認知症初期集中支援チーム検討委員会について 資料「認知症初期集中支援チーム員活動」	
北葛北部医師会 山根医師	<p>6月時点の認知症初期集中支援チーム検討委員会での意見集約について、成果と課題の発表。</p> <p>この地域の問題として、地域包括支援センター職員が認知症初期集中支援チームのメンバーでもあり、どちらの立場での相談なのか境目がない。初期集中支援チームの活動に対して、国の定めたホーマットがあり書類が非常に多く、地域包括支援センターの業務が忙しい中で負担が大きくなっている。書類の省略できるところは、必須にしなくてもよいのではないかな。</p> <p>認知症の問題だけでなく社会的な問題を抱えていることが多く、多方面の方に関わってもらって対応している。</p> <p>認知症サポート医の受診につながった事例発表。ご夫婦で孤立しているケースは多い。</p> <p>初期集中支援チームは多職種であることがメリットであり、仕事としては、医療と介護の網にかけるところまでが仕事で、その後の生活支援は地域包括支援センターの仕事として切れ目のない支援となるのではないかなと思う。</p> <p>総合支援としては、地域での関わりなど網にかけて制度を上手に利用できると良い。</p>
中野議長	生活が成り立っているかどうかの判断や先生が繋いだほうが良いと思うラインは。
北葛北部医師会 山根医師	自分の家すら認識できない場合などは、他の社会生活にも支障があると思われるため、その場合は繋げてもらった方が良いのではないかな。社会生活が成り立っていて危なくなければ大丈夫ではないかな。周囲がどのくらい困っているかなどが判断となるのでは。
中野議長	上手く医療機関の受診に繋がった場合に見逃さないようにしていこうということかなと思いますが、そういう事でよいか。
北葛北部医師会 山根医師	認知症を見逃さないようにしたいが、病院では大丈夫でも家庭では様子が違うことがあるので、気を巡らしているが内科を受診された場合にも発見が難しい。
中野議長	包括支援センターの方、何かアドバイスがあったらお願いしたい。
幸手東地域包括支援センター 中田氏	今回発表していただいた事例は望ましいケースだが、私達が関わる時には初期ではなく、かなり問題を抱えた状況になっている。周囲が気付いた時の初期であるため、本当の意味での初期での関りではない。本当の意味での初期の状況で繋がっていくといい。
中野議長	本日の議事はこれで終了となる。
幸手市介護福祉課 関森主査	<p>連絡事項。次回の会議は令和2年6月を予定している。</p> <p>2点目として、認知症初期集中チーム検討委員会も同時に開催する。</p> <p>3点目として、来月1月26日(日)にカルスタ杉戸において「コミュニティデザインについて」コミュニティデザイナーの山崎亮先生をお招きして、市民の集いを開催する。</p>